

第9回公共施設再編計画策定検討委員会 議事要旨

日時：平成30年1月23日（火）14時～16時

場所：町田市役所10階10-3会議室

出席者：委員長 市川宏雄氏
副委員長 山重慎二氏
委員 神山和美氏
前島正光氏
岩崎俊男氏（欠席）
大塚信彰氏
小林祐士氏
通地康弘氏
大倉博志氏
増山正子氏
長谷川隆氏

1. 事務局連絡事項

- ・ 傍聴者4名
- ・ 3月放映予定のまちテレの撮影

配布資料確認

2. 事務局より、議事（1）（2）の説明

（敬称略）

事務局

- ・ 山重委員遅参。岩崎委員欠席。
- ・ 流れと配布資料。短期再編プログラム素案についてと、ご意見募集。11月の第8回の委員会の冊子を使用。ご意見募集については資料1を使用する。資料1の最終ページの差し替えと広報紙のイメージを配布した。
- ・ 事務局より前回の振り返りと今後の流れについて説明。

事務局

- ・ 前回は、複合化のあり方について議論した。一般論になりすぎているといった意見があった。今後、具体的な議論をする際には、考慮していく。また、ベースとなる方向性について前回議論した。後半では、短期再編プログラム素案について議論を行った。
- ・ 前回以降の状況については、パネル展示、広報まちだへの掲載のほか、成人式でもリーフレットを配付した。12月の議会と委員会では、市民への情報発信は評価できる、施設の

運営方法や複合化・廃止した場合の市民への影響を想定したシミュレーションを発信すべき、市民に出向いて説明するべきといった発言、ご意見をいただいた。段階的に説明していくことを答弁した。9月21日の市議会での請願は、3か月間の継続審査となった。

- ・今後の流れ。3月末頃のご意見募集までに2回、実施後に2回の委員会を予定している。2月27日の第10回の委員会では、市民説明会の内容、まちテレの放映内容について紹介。来年度の第11回では意見募集結果を説明する。6月上旬の委員会で計画を最終確認する。

事務局

- ・短期再編プログラム素案について、前回事務局より前半部分を説明した。本日は後半部分を説明する。
- ・計画の構成案について説明。町田市の現状、再編にあたっての考え方、施設機能ごとの方向性、資料編では施設の状況、地域の状況。

事務局

- ・前回は全体的な意見が多かった。学校について数値目標はないのか。学童と放課後クラブ、中期や長期が空欄であることはなぜかといったもの。
- ・文化基本構想が策定中であり、仮称国際美術館、スポーツ施設等について記載がある。これ以外にも子ども関連の施設整備の計画がある。
- ・投資をしながら再編を同時に平行していくのが事実であり、ご意見募集でいろいろご意見が出てくると思われる。
- ・ご意見募集ではその他の施設として説明は特にしていないが、フォトサロンやレクリエーション施設としてひなた村、大地沢青少年施設が含まれる。
- ・議論のポイントを配付した。①今後の方向性に沿った取り組みが提示できているか、②短期の取り組みとして妥当であるか、③市民の方に理解される、または誤解を与えない表現か。

委員

- ・長期計画であると思うが、2030年には高齢者が3割、2050年には4割ぐらいになることや、公共施設へのお金がないといったことがあまり盛り込まれていない。
- ・計画には目標が必要である。短期再編プログラムでどれくらいお金を減らすのか。4割減らすとすると、大胆な施策が必要である。案を見ている限りそのような記載が無い。
- ・住民の立場からすると一番の問題は老朽化が激しい学校。十数年で建て替えが必要となるが、延床面積でも半分ほどを占める。学校をどのように統合化、再編していくのかを議論していかないといけない。短期再編プログラムのメインとなるのではないか。

事務局

- ・ 当初は 40 年間で費用を減らすか、お金を工面するといった話を、条件設定が難しい中でなんとか出していこうとしていた。
- ・ 学校をどれだけ減らすかによって、それ以外の施設をどれだけ残せるのか変わってくる。2020 年度までに教育のあり方や、施設の規模、児童生徒数、通学距離等も含めた配置の検討など、学校で取り組みを行うこととなっている。この計画では数値目標を定めずに、引き続き教育委員会で議論してもらおうとしている。

委員

- ・ 計画では、施設を横並びにして見せていくのか、圧縮額が多いものから見せていくのか。運営にかかるコストなどにも触れていくのかどうか気になる。

委員長

- ・ 短期の 10 年間で当面、何をするかというのが現状。本来は目標を定める必要がある。

事務局

- ・ 当初はいわばショックを与えるような計画にすると考えていたが、市民に状況をしっかりと広めながら、議論の場を展開しようと考えている。

委員

- ・ 住民に対してはショックの面と、先が見えていることの両方を示さなくてはいけない。建物維持のお金が無くなる、そのために縮減するということは言わなくてはいけない。
- ・ もう一つはの中で、新しい公共施設のあり方を示していく必要がある。他の自治体の例を調べてみると、学校の教室を高齢者の福祉センターに転用する例があった。

委員長

- ・ 今日の説明資料について具体的な意見がほしい。

委員

- ・ 話が戻るかもしれないが、スタートがおかしいのではないかと。単純にお金が足りないということは、ショックではなく当然わかっていること。そのために、市としてこうしたことをやっていくということを説明する必要がある。
- ・ 時系列や考え方がバラバラになっている。市としてターゲットになるのは学校。30 年後の議論を今細かくするのは難しい。10 年間の計画から、徐々に長期にシフトしていく。その中に再編があるという見せ方が必要。

- ・ 長期的ビジョンが間違っていないということを示しつつ、短期の内容を示す必要がある。また、短期と長期がどう結びつくのか、説明しないといけない。

委員長

- ・ 今回、短期の方向性が具体的に出るが、長期のことをどこまで表すか。
- ・ これだけ多くの施設を持っている自治体では結論はすぐに出ない。財政が逼迫すると、公共サービスも変わる。
- ・ 市民は自分が関わっている施設への関心が強いので、全体の結びつきよりも個別の短期の方向性がポイントになる。30年後への関心よりも近い将来への関心が高いはず。
- ・ 30年後の議論をするには現在の価値観では限界がある。

委員

- ・ 2千人のホールは一つの自治体が賄うものなのか。いくつかの自治体で保有すればいい。役割分担のようなもの、例えば、相模原市や東京都と協議をしたことがあるのか。

委員長

- ・ 文化ホールの構想は、具体的な場所が決まらなないと本当に必要かどうか決まらないこともあり、今は計画として動いていない。原則は市税で設置するものという考えがある。利用の面で共有はあるが、設置に向けての自治体間での調整はない。

委員

- ・ 公共施設だけでなく、神社や交番なども地域コミュニティを構成している。計画がこういったところにも触れていくのかというところが気になった。

委員

- ・ 美術館・博物館の2館は2021年に「運営先を決定する」となっているが、必ずしも委託を想定していないのであれば、運営者といった表現のほうがよいのでは。
- ・ プラザ町田について、「当面は指定管理料で運営が賄える」とあるが、利用料金収入は市の歳入となるのか。確認をしてほしい。また、同じ部分で、「指定管理の更新の際には、より効率的な運営の提案ができるように選定を行う」とあるが、現在は指定管理の選定方式に問題があるように見える。意味としては、スキーム自体を変えて、インセンティブを与えるようなことだと思うので表現を考えてほしい。

委員

- ・ 高齢者福祉施設の記載で、高齢者の居場所づくりとあるが、どのようなイメージか。本

当に必要なのかという疑問がある。再編後のイメージでは、多様な人が集まる場所に転換するとあるが、具体的な 9 年間の取り組みにある介護スペースの改修とのつながりがわからない。

事務局

- ・ 現在のふれあい館の風呂などは利用者が少ない割にコストがかかるので、会議室などに転換していくという趣旨。介護予防の場もふれあい館だけでなく、他の施設の中にスペースを用意して、再編後のイメージを実現していきたい。そうやって、中期的には単独のふれあい館は無くしていく方向を示している。

委員長

- ・ 高齢者の居場所づくりは短期ではなく、中期。取り組みは短期に限定されているので、少し中期的なものも書かないと伝わりづらいところもでてくる。

事務局

- ・ 事業の内容に踏み込むと際限がないが、書き方の工夫を検討してみる。

委員

- ・ 福祉総務課が 10 箇所まちづくりについての説明会を実施している。そちらにも再編計画の内容は反映されているのか。

事務局

- ・ 再編計画はまだ策定中であるため内容を同時に展開していくのは難しいが、今後の地域協働ビジョンも含めて都市マスなどは人口減少局面を見据えてこれから改定していく時期にある。もちろんこの計画との連携はしていく。

委員

- ・ 全体的な考え方が個別の方向性に盛り込まれていないと説得力がない。取り組みの中には急ぐ必要があるものもある。この委員会での結論としては、具体的な表現を記載する必要がある。

委員長

- ・ 次年度以降の庁内の体制づくりは今後議論する。現段階で先行して具体的に記載してしまうと、担当部署の取り組みとの整合性が合わなくなることもある。

委員

- ・ 各部署を刺激するようなことも必要である。

委員長

- ・ 気持ちはわかるが、庁内で反発を受けてしまうと議論が止まってしまう可能性もある。この計画は終わりではなく始まりという位置づけだろう。

委員

- ・ その他の集会施設と市営住宅について、短期再編プログラムの記述がないのが気になる。
- ・ その他集会施設というのは地域にとって大事である。地域コミュニティと市の関係のほか、集会施設には防災などの機能もある。
- ・ 市営住宅についても、高齢化が進む中、都営住宅との関係がある中でどうしていくのかという点で大事な部分である。

事務局

- ・ その他集会施設について、市の特徴的な施設として、中規模会館が 40 か所ある。市が整備費を出して、地域に持ってもらうことが原則で設置した中で、例外的に市に残っている施設がある。地権者などとの調整等があるので具体的なスケジュールは記載難しいところ。地元移管が基本である。そのほか、都営住宅の付随の施設もある。
- ・ 市民から見ると、特養や民営施設も公共施設として認識されているが公共施設ではない点でこの計画からは外れている。
- ・ 市営住宅については建替えが済んでいるので、計画期間中は維持が基本だが、町田は団地が多く、まちづくりが関わってくる中で議論を進めていく必要がある。

委員

- ・ 今のような説明を受ければわかるので、もう少しわかりやすく書き込んだ方が良い。

委員長

- ・ 短期再編プログラムの記載が無い理由は書いておかないといけない。

事務局

- ・ 中規模会館の中には地域で支えきれない施設も生じており、所管の市民部で議論を始めている。

委員長

- ・ 「継続」というのはどういう意味か。

事務局

- ・ 「継続」とは、取り組みを継続するという意味であり、施設の継続とは異なる。

委員長

- ・ 東京都は都営住宅をやめる検討も進んでいるが、町田市はどうか。

事務局

- ・ 社会情勢に合わせていく。

委員長

- ・ 次の議題の説明を。

事務局

- ・ ご意見募集については、3月20日から4月20日に実施する。市民説明会は3月22日から27日。各地区で行い、計10回。夜だけでなく、午前中や昼の時間帯も用意する。広報特別号は3月1日に発行。
- ・ 前回のご意見募集は、取り組みの方針・考え方についてがテーマであったが、今回は一歩進んだものとなる。本日の議論を踏まえて調整していく。
- ・ 広報紙は、これまで関心がなかった人にも知ってもらうことに重きを置いている。

委員

- ・ 市民で話し合った中で、根本的に考え方が異なる部分がある。市民の意見はどこまで計画に反映してもらえるのか。その期限はあるのか。例えば、学校を減らすのではなく、減築しながら残していくべきといった意見が出ている。

委員長

- ・ 意見をいただいて総合的に判断していく。

事務局

- ・ 学校を減築するということも検討の選択肢に入っている。長寿命化も選択肢に入っているが、全校を長寿命化するとお金が足りない。

委員長

- ・ 小学校を集約するのは合意形成に時間がかかるので他のバリエーションも考える必要がある。

委員

- ・ 地域の中での一極集中ではなく、分散して機能を残すなど、いろいろな意見が出ている。

委員

- ・ 多様な意見を求めるのであれば、機能別・施設別に設問を設置するのはどうか。

事務局

- ・ 現時点で求める意見でなくても、必要な意見として残していく。

委員長

- ・ 意見を出す際のフォーマットはどうなっているか。複合化すべきといった意見が出てきたときに対応できるか。

事務局

- ・ 指定のフォーマットがあるわけではないので対応できる。

委員

- ・ もらった市民の意見をそのまま計画に反映するというよりも、計画策定を進めるにあたって、いろいろな意見を聞いて、可能なものは少しでも反映して、方針の精度を高めていくという目的ではないのか。出された意見は市民のごく一部の人の意見になるわけだから、そのままそれが良いというものではないはず。

事務局

- ・ そのように認識している。

委員

- ・ 再編ということは、経済的視点が中心。新たな価値の創出といったことは中長期の中で生まれてくるもの。もっと財政的な説明を入れるべき。

委員長

- ・ 広報ではお金のことが中心に記載されている。

委員

- ・ 国土交通省の補助金は想定しているのか。

事務局

- ・ モデル的な事業は対象になるだろう。

委員長

- ・ まちテレとはなにか。

事務局

- ・ ケーブルテレビ、youtube で放送される 5 分程度の広報番組。街頭インタビューや 20 歳の人の座談会など。

委員長

- ・ 推進体制の図がわかりにくい。市民がどうやったら参画できるのかを示したらよい。あまり詳しくてもわかりづらい。

委員

- ・ 庁舎・窓口施設に意見があるとする、例えば成瀬の高齢者世代ならば、なるせ駅前市民センターをイメージするが、生産世代から見ると市役所とかをイメージする。意見する側が何を対象に意見しているかが分かるようにしておいた方が、意見を受け取る側がわかりやすいし、誤解を生むこともないのではないか。

委員長

- ・ 市民に読んでもらいたいのは、今後の方向性のところか。メリハリをつけてほしい。

事務局

- ・ 見せ方を工夫する。

委員

- ・ 求めたいのは、今後の方向性。そこがわかるように鮮明にした方がよい。また、冒頭でここについて意見がききたいと謳っておくことも必要である。

委員長

- ・ 今回の意見募集は重要。どのような意見が出てくるかシミュレーションをやってみるといいのでは。市民は今後の方向性の中の具体策を見るように思う。

委員

- ・ 意見の出し方を確認したい。フォーマットはあるのか。

事務局

- ・ ホームページに参考のフォーマットはあるが、フォーマットは任意である。前回もいろいろな様式・媒体でいただいた。もちろん窓口への持参や FAX でいただくことも可能。

委員

- ・ 再編という言葉にはたとえば小学校と保育園を一緒にする等のイメージも含まれると思うが、この資料には出てこない。機能別に見ていったときに自分の地域の施設や現在の機能の話に収束してしまわないように、ある程度イメージを出すとよいのでは。地域の特性により地域差もでてくると思う。
- ・ フラットに意見を聞くより具体的な意味をもった意見が出てくるような資料にしてい くべき。

委員長

- ・ 一緒にする施設は何かといったような知恵をもらうのもありうる。

委員長

- ・ 次回は 2 月 27 日。本日の資料についてはそれまでに意見を出してもらいたい。

事務局

- ・ 市民説明会のチラシを入れているが、2 月に町内会自治会の協力で回覧をまわしてもら う。委員の皆様にも協力いただきたい。

以上